



1月・2月の柑橘園管理

果樹
 鶴浜 研二
 上島営農指導センター
 080-1771-4257

1. 中晩柑の収穫と予措・貯蔵

腐敗果防止の為、収穫時は果実にキズをつけないよう丁寧に扱い、下の表を参考に予措を実施しポリ個装を行ってください。

品種名	予措期間 (減量割合)	予措湿度
デコボン	14日 (3%程度)	85~90%
ボンカン	30日 (7%程度)	85~90%
甘夏	14日 (3%程度)	90%

2. 土づくり

良い作物作りはまず健全な土づくりから始まります。下記の表は10a当たりの目安量となりますので、表の基準を参考に投入してください。

時期	資材名	10a当たり	備考
2~3月 (収穫後)	堆肥	2,000kg	完熟物
	客土	4,000kg	3cm以内
	ヤシガラ	20袋以上	2キュービック (120ℓ/11kg)
	土の恵み	12袋以上	堆肥・ヤシガラの代わり
	天然フルボ酸 (粒)	3袋	ミネラルバランスの調整

3. 樹勢回復対策

収穫が終わった園では速やかにチッ素主体の葉面散布を行い、樹勢回復を行ってください。

薬剤名	希釈倍数	備考
尿素 又は アミノジューシーN14 又は 神協スピリッツ	500倍	収穫後3回以上集中散布を行いましょ。

4. 施肥

時期	資材名	対象品種	10a当たり	備考
2月上旬	炭酸苦土石灰	全品種	10袋	
	新有機中晩柑一発	河内晩柑 清見・甘夏 パール柑 デコボン	10袋	超省力化タイプ (年1回施肥) (11月施肥をしている場合 2袋減)



「オクラ」栽培耕種基準

野菜
 坂田 沙貴
 上島営農指導センター
 080-1759-0091

月	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
作型	ハウス	ほ場準備																					
	トンネル (直播)	ほ場準備																					
	トンネル (移植)	ほ場準備																					
	露地	ほ場準備																					

凡例 ○: 播種 ◎: 定植 ◯: トンネル

1. 品種 ブルースカイZ

2. 播種・定植

・地温が15℃を確保できたら播種・移植する。無理な早播きは発芽率の低下や苗立枯病に大きく影響する。
 (直播) 1穴当たり5~6粒播き。指先で軽く鎮圧し、無病の土(育苗培土や赤玉土など)で被覆する。深播きに注意。
 (移植) セルトレイ2穴分(苗6本分)を植穴1つに植え、根回し灌水を行う。
 ・移植後又は直播では発芽後、タチガレン液剤(500倍)を株元灌注し苗立枯病を予防する。

3. 育苗管理(移植栽培の場合)

床土はプラグ専用倍土を使用し、入れムラのないようよく填圧する。トレイは128穴のプラグトレイを使用。1穴3粒播き。

注意点

- ① 播種は深さを避け、播種後充分灌水し、水を切ってから重ね黒ビニール等をかけて保温する。
- ② 発芽適温は25~30℃。10℃以下になるとほとんど発芽しないため低温には注意する。
- ③ 発芽後トレイを広げるが、低温に遭遇すると苗立枯病を起こすため、ベンチ育苗を行う。

4. 本圃の準備

・圃場は日当たりが良く、センチチュウに汚染されていない排水良好な圃場を選ぶ。
 ・播種・移植まで余裕をもって土壌水分が良い時に畝立を行う。
 ・梅雨期の栽培となるため、額縁明渠など排水対策は万全にし、高畝にするなど長時間浸水しないようにする。
 ・管理、作業を考慮し、通路はなるべく広く取れるようにする。
 ・基肥の施用が多すぎると初期生育が旺盛となり着果が遅れるため注意する。特に、前作が野菜の場合は注意(残肥が多いため。レタスの後作の場合は基本無肥料)
 ・トンネル栽培では、地温の確保のため早めに設置し、移植までに15℃以上を確保する。
 ・施肥量(前作が何も栽培されていない場合)

肥料名	袋数	kg	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
(基肥) 堆肥		2,000			
ベスト444	2	40	5.6	5.6	5.6
(追肥) アサヒエース等			草勢を見ながら1回N成分で1~3kg/10a 10日置き程度		

(栽植様式)

	畝幅	株間	条間
1条植え	90cm	18~20cm	—
2条植え	135cm	22~25cm	35~40cm

5. 本圃の管理

- ・本葉展開後、斑点細菌病・葉枯細菌病の防除を行う。(5月上旬)
- ・(トンネル栽培) 外気温が15℃以上になる5月上中旬頃、徐々に慣らしながらトンネルを除去する。
 (トンネルや畝が乾燥した高温の状態一度に開けると葉焼けを起こすので注意する)
- ・本葉3枚目で葉に切り込みが入ってくるくらいがベスト。茎径が太く、本葉4.5枚目が丸葉の場合は、メリット赤等で生育を抑制する。
- ・草勢に応じて着果前後で1回目の追肥。草勢が強い場合、追肥すると落果の可能性がある。その後は草勢を見ながら追肥する。(施肥例: N成分1~3kg/10a 10日置き)
- ・着果が開始し、梅雨に入る前に果実黒斑病の予防防除を行う。以降、台風前後や大雨前後に行う。
- ・畝内の水分変化が大きいと果実黒斑病等の病気の発生や生育に影響が出やすいため、乾燥が続く場合は灌水を行う。(滞水しないのであれば、畦間灌水でも可能)
- ・草勢を見ながら摘葉を行う。特に生育初期に草勢が強い場合は、着果位下まで摘葉し草勢を抑える。
- ・早期水稲の稲刈り等農繁期で手が回らない場合は、地上部50~60cm(ほど)から切り返し、1穴当たり5~6本の側枝を残す。(時期は7月下旬まで)

6. 台風・大雨対策

- ・梅雨に入る前までに、排水対策を再度確認する。
- ・風対策として、畝の両側に約2m間隔で支柱を立て紐を張り倒伏を防止する。また台風等強風が予想される場合は、紐等で数株ずつ絞りに固定する。
- ・大雨や台風通過後は葉面散布や発根剤で株の回復を図る。

7. 収穫・調整

- ・取り遅れがないよう、出荷規格内の長さで収穫する。できるだけ午前中に収穫する。7月後半~8月の高温期は1日1回では取り遅れる場合がある。その時は朝夕2回収穫する。
- ・収穫後は、日陰の風が通る場所で蒸れを防止し、切り口を乾燥させるために広げる。
- ・袋詰めした後も夜温が高い場合は、段ボールの上を開けた状態で重ねず風通しを良くする。あるいは出荷直前に箱詰めする。
- ・箱詰め後は、ムカデ等の混入に注意する。(床に直に置かない・壁寄せで置かない 等)



トルコギキョウの冬季計画生産のための考え方

花卉
吉澤 清
下島営農指導センター
080-1774-5386

【トルコギキョウの開花特性と冬季開花の環境調節】

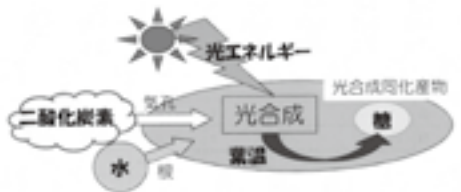
- ・トルコギキョウは北米大陸原産で、自然環境下では夏に開花する植物です。
- ・花芽分化と発達は、高温、長日、高日照条件で、促進されます。
- ・冬季出荷は、低温、短日、低日照条件のために花芽分化の遅れや発達の停止(プラスチング)が生じやすい作型です。
- ・冬季開花の作型では花芽分化と発達を促進する環境調節が必須です。

【冬季開花の光合成環境の特徴】

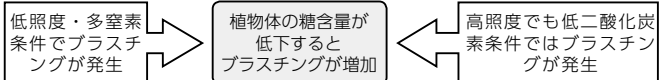
- ・冬は昼が短く、日射量が夏の半分と少ないため、1日当たりの糖の生産量は夏と比較して約半分に減少します。
- ・トルコギキョウは、冬の晴天日の光強度と大気二酸化炭素濃度下では、葉温25-30℃で光合成速度が最大になります。そのため、日中のハウス内温度も25℃を超えない場合は、さらに光合成速度が低下します。

(光合成の仕組み)

- ・光合成とは、水と二酸化炭素を原料として、光エネルギーで糖を合成する化学反応です。
- 糖(光合成同化産物)は植物体の材料となり、切り花のボリューム増加のために利用されます。
- ・光合成速度を決める環境要因は、水、二酸化炭素、光強度、葉温です。
- ・二酸化炭素濃度や光強度が低下するほど光合成速度が低下します。水欠乏は葉の気孔を閉鎖させ二酸化炭素の取り込みを阻害します。

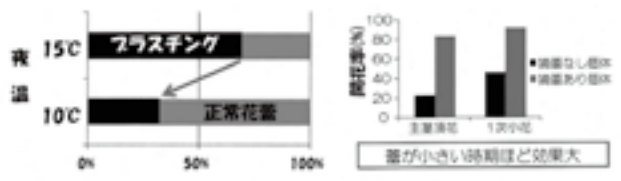


【プラスチング発生と糖の関係】 プラスチングとは…胚珠(種子のもと)が分化せず、蕾の成長が止まる現象



【プラスチング回避のポイント】

- I. 花芽分化や蕾の発達を促進する。
 - ①白熱灯で長日処理を行う。
- II. 光合成を促進する。
 - ①太陽光を最大限取り込む。
 - ②光の強い時間帯は25℃以上。
 - ③換気(外気導入)、二酸化炭素施用を行う。
 - ④葉が萎れるほど水切りしない。
- III. 糖の消費を防ぐ
 - ①多窒素条件にしない。
 - ②夜温を10℃程度に下げる。
- IV. 余分な蕾や枝をその成長初期に切除



【品種についての考え方】

- ・低コスト計画生産を実現させるためには、出荷率(製品率)が高いこと、出荷時期がそろうことが大前提です。
- そのためには、
 - ・初期生育が優れ、花芽分化の揃いが良い品種。
 - ・プラスチングの発生が少ない品種の選択が必要です。
 - ・品種選択の基準の一つである「早晩性」では、早生～中早生が該当します。
 - ・プラスチングの発生のしやすさには品種間差がありますが、早晩性や花の大きさとの相関はありません。
- 栽培圃場の光環境や栽培技術によって、安定的に栽培可能な品種の範囲も異なります。個別に比較検討して、品種選定を行ってください。

家畜ふん尿の適切な処理と堆肥の適正利用をお願いします!

○畜産農家の方へ

家畜ふん尿は、堆肥化(固形分)と浄化処理(液分)を適切に行いましょう

家畜ふん尿は適切に管理しないと悪臭や害虫の発生などで周囲に迷惑をかけるばかりでなく、地下水や河川への流入により、環境汚染の原因となります。

やむを得ず堆肥舎の外で保管する場合は、床面に不浸透のシートを敷き、降雨による流出防止のためのシートを被せる必要があります。

家畜ふん尿に対しては、「家畜排せつ物管理の適正化及び利用の促進に関する法律(家畜排せつ物法)」が適用され、不適切な処理及び管理が確認された場合には罰則を受けることがあります。

○耕種農家、畜産農家の方へ

堆肥を運搬される際には、道路へこぼさないようにしましょう

運搬用車両の荷台の高さ(あおり)に余裕がある状態で積み込み、走行中に堆肥が落下することがないようにしてください。

農地への堆肥投入量は過剰にならないようにしましょう

堆肥の過剰施肥を続けると硝酸態窒素等の有害物質が地下水等に流入し、周辺環境だけでなく人体へも悪影響を及ぼすことがあります。また、堆肥成分が土壌に蓄積すると、塩類集積が起これ、作物根の障害等につながります。堆肥は土づくりに欠かせない有機資材ですが、適量施用を心がけることが大切です。

農地に堆肥を積みっぱなしにしないようにしましょう

近隣辺への悪臭や害虫発生など迷惑になりますので、堆肥は使う分だけ畑に入れ、搬入後は速やかに散布とすき込みを行いましょう。



堆肥が圃場に放置されている様子

問い合わせ先：熊本県天草広域本部農業普及・振興課 (TEL:0969-22-4264)